



NPO法人 西東京臨床糖尿病研究会

MANO a MANO

“mano a mano”とはスペイン語で“手から手へ”という意味です



『西東京療養指導士の誕生に向けてエール！』

当会評議員

武蔵村山病院

小柳 貴子 [看護師]

先月2月15日に『第15回 西東京療養指導士（LCDE）認定試験』が実施されました。毎年、多くのLCDEが新たに誕生されることに、私自身とても嬉しく心強く感じます。

LCDEの資格を得た時点では、療養指導に関する経験は殆どないという方も少なくありません。従って、LCDEの資格を得てから実際に糖尿病患者さんへの療養指導経験を積んでいくということになります。LCDEになったからには“こんな事がしたい”と明確な考えを持っている方もいれば、反対に“今までと何が変わるかわからない”といった方もいると思います。そんな方は、まずは今の自分の状況を受け止めてみることから始めてはいかがでしょうか。LCDEを目指すに至った経緯も様々ですが、何より糖尿病療養に携わろうと一歩踏み出せるよう背中を押してくれた先輩の存在、周囲のサポートに感謝の気持ちがこみ上げてきませんか。また、実際に一歩踏み出すために努力した自分が誇らしく思えたりしませんか。13回にわたる講座のなかで講師の方の経験談を伺うことが、自分の役割を考えるうえでとてもよい刺激になった方もいるでしょう。感じ方は一人ひとり違います。

療養指導の経験を重ねる中、患者さんと向き合う真剣な場面に不安はつきものです。患者さんの反応や表情、検査データなどを追いながら自分のかかわり方に悩み自信をなくすこともあります。何十年も糖尿病と付き合い合ってきた患者さんと一対一で向き合った時、自分に何ができるだろう、何を伝えられるだろうと立ち止まってしまう時もあるでしょう。

そんな時は現場のチームメンバーに是非相談してみてください。「どうしたらいいのかお手上げ」なんて言いながらカンファレンスをしていくことで、新たな考え方を発見できたり、知らず知らずに緊張がほぐれてくることを実感できるでしょう。そして、経験豊富な医師や諸先輩方の実体験を糧として、知識や技術、そして考え方や患者さんへ向き合う姿勢を学ぶことがLCDEとしての自信につながると思います。

先日、当院のカンファレンスでは、受診の度に良くなる患者さんの経過を医師と看護師がとても嬉しそうに話していました。「あの患者さんと話す自分たちも元気になるよね」と顔をクシャクシャにして、まさに手放して喜んでいくといった様子でした。そんなチームメンバーを見て、思わず私も嬉しくなり同じチームの一員であることが誇らしく感じました。そして同時に自分も頑張ろうと気持ちが前向きになっていました。

資格取得による変化は、自分自身が患者さんへ向き合える心の準備ができたということに他なりません。是非、資格取得をバネにして経験を積んでください。所属している組織や配属部署、役割にも大きな違いがあり、療養指導に携わることができず残念だという意見を伺うことがあります。糖尿病患者さんはたくさんいらっしゃいます。今や医療機関、薬局を訪れる方の多くは糖尿病に関心をもっています。実際に糖尿病患者さんの目や耳や心を通して感じ得たことを教わること、大切に受け継ぎ伝えること、貴重な知恵を療養支援に役立てていくことがLCDEの大切な役割となります。

今年も多くの西東京療養指導士が誕生してくれることに感謝し、これからもさらなる患者支援の輪が広がりますように心からエールを送ります。

読んで
単位を
獲得しよう

西東京糖尿病療養指導士（LCDE）は、更新のために5年間に於いて50単位を取得する必要があります。当会会員は、会報「MANO a MANO」の本問題及び解答を読解された事を自己研修と見做し、**1年につき2単位**（5年間で10単位）を獲得できます。毎月、自分の知識を見直し、日々の療養指導にお役立てください。（「問題」は、過去のLCDE認定試験に出題されたものより選出しております。）

『問題』

歯周疾患、う歯に関して正しいのはどれか、1つ選べ。

1. 歯周疾患で最も高頻度に見られるのは歯肉炎である。
2. 歯周炎の原因は歯垢中に存在するウイルスである。
3. 糖尿病患者では唾液中のブドウ糖上昇と唾液量低下により歯垢形成が助長される。
4. う歯の発生機序には歯垢は関与してはいない。
5. 糖尿病患者の抜歯では、必ず抗生物質と止血薬の投与が必要である。



（答えは7ページにあります。）

研究会等の実施報告

第7回 ブルーライトアップ スカイトワー西東京

平成26年11月8日(土)
スカイトワー西東京

【報告】 当会理事 第7回ブルーライトアップ実行委員長 多摩北部医療センター 藤田 寛子 [医師]

『第7回 ブルーライトアップ スカイトワー西東京』は、2014年11月8日開催で多摩北部医療センターの藤田が担当させていただきました。拙い進行でしたが、皆様のご尽力で素晴らしい内容にいただき、心から感謝申し上げます。

市民向け講座開会にあたっては、まずは貴田岡正史理事長が「世界糖尿病デー」の始まりや意義、並びに世界各地で執り行われるブルーライトアップ企画についてご説明くださり、次いで2008年からライトアップという(経費のかかる)甚大なご協力をいただいている株式会社田無タワーの功刀美保子様から、ご参加の市民の皆様に向けてスカイトワー西東京のご紹介をいただきました。続いて特別講演として、多摩北部糖尿病療養指導チームから「糖尿病とは」財部大輔医師、「糖尿病のお薬の考え方」小久保智弘薬剤師、「明日から実践したくなる食事・運動・治療の話」町田景子看護師の3人が、「わかりやすく、親しみやすい。そして役に立つ!」をモットーに順番に市民の皆様にお話をさせていただきました。糖尿病の病態や合併症のこと、毎日内服するお薬をご理解いただくための豆知識、そして療養の毎日で心がけることや実際の生活での工夫をお伝えいたしました。会場からは、かなり専門的なご質問もいただき、大変盛況でした。途中ラジオ体操も入れて「息抜き、兼、手軽な運動療法」を丹野恵子看護師と町田景子看護師で実演し、「会場全員参加」で楽しんでいただきました。市民講座の最後は、次回担当の多摩センタークリニックみらいの藤井仁美先生に閉会の辞をいただきました。



そのあとは、全員で多摩六都科学館の駐車場に移動し、「ブルーライトアップ点灯式」となりました。夕から雨と予想されていたお天気も何とか持ちこたえ、(寒い日でしたが)温かい雰囲気いっぱいの中、貴田岡理事長の「点灯!」の合図でスカイトワーに鮮やかなLEDの青いリングが現われると、いっせいに歓声上がり拍手の音が響き渡りました。輝きながら回転してリングを作るといって、世界で一つしかない青いリングです。その姿を、みんなでみつめて世界の糖尿病患者様のご健康を心からお祈りした素晴らしい閉幕でした。

企画・会場の整備や市民の皆様への移動誘導にご尽力いただいた関係者の皆様、本当に有難うございました。来年も「優しい青い和(輪)」の集いを楽しみにしております。

研究会等の実施報告

第7回 ブルーライトアップ スカイトワー西東京
西東京CDEの会主催イベント「糖尿病スタンプラリー」平成26年11月8日(土)
スカイトワー西東京

【報告】 当会会員 西東京CDEの会実行委員 日本医科大学多摩永山病院 後藤 円 [看護師]

昨年11月8日(土)『第7回 ブルーライトアップ スカイトワー西東京』で、西東京糖尿病療養指導士(LCDE)による初めてのイベントを開催いたしました。

15:30の開場から16:00の講演開始までの短い時間でしたが、スカイトワー西東京の入り口から玄関までのアプローチに会場を設定、スタンプラリーを行いました。来場者が受付でスタンプカードを受け取って、最初に向かうのは、「おやつのエネルギーと歩く時間」。壁に貼られたおやつの写真を見て、それに相当する歩く時間のカードと合わせるクイズです。天川先生のレクチャーがつき、メトロノームで歩く速度も体験できました。おやつ写真をめくるとカロリーが書いてあるのですが、クリアするのは大変です。2問目は、「食間っていつ?」。薬の飲み方クイズです。最終問題は、「測ってみよう一日分の野菜350g」。テーブルの上に並べられた地場野菜をざるにとり、秤で計量。何度でもやり直しOKですが、NG野菜の里芋とさつまいもが混ざっています。測った野菜はそのまま土産にお持ち帰りいただきました。スタンプラリーが終わったあとは、ヨーヨー釣りを行いました。「孫が喜ぶ」と好評でした。

今回、初めてのイベントでしたがケロロ軍曹の消しゴムスタンプを作ってくださいました方、自宅でとれた野菜を持ってきてくださった方、会場準備からイベントまでLCDEらしい楽しいイベントになりました。

研究会等の実施報告

西東京臨床糖尿病研究会 学術評議員会
第8回 特別講演会

平成26年11月22日(土)
国分寺労政会館

【報告】 当会理事 企画委員会委員長 立川相互病院 住友 秀孝 [医師]

当会では会員の皆様に最新の糖尿病関連情報をお届けするため、企画委員会主催・学術講演会を年2回開催しております。『第8回 特別講演会』は、2014年11月22日(土)国分寺市労政会館にて、名古屋市立大学大学院 薬学研究科・薬学部 神経薬理学分野 教授 糸和彦先生をお迎えし、ご講演いただきました。前回より、非専門医の先生方・comedical会員のご参加を開始し、今回は合計37名が参加され盛会となりました。

今回のタイトルは、「生活習慣病と睡眠障害～不眠症の新治療ガイドラインの紹介～」です。糸先生は、生活習慣病に対して食事と運動は重視されてきたが睡眠と休息の重要性も注目されていること、日本人にも頻度が高い睡眠時無呼吸症候群は高血圧や耐糖能障害の原因となるが、単なる睡眠不足や不眠症も実は生活習慣病の重大な要因になりうるということが解明されたこと、逆に生活習慣病とその治療薬が睡眠障害の要因にもなるため相互に悪循環を形成することをご講演になりました。

また、高血圧症や糖尿病は治療法や予防法についての理解が進んでいるが、睡眠障害の重要性は医療者にもまだまだ浸透が不十分であり、また一方、不眠症に対する安易な睡眠薬治療による弊害も指摘されている現状を踏まえ、2013年日本睡眠学会より不眠症治療の新ガイドラインが発表されたこと、またその概要についても丁寧に講演されました。

不眠症治療には認知行動療法の重要性が強調されており、実地医科・非専門医にとって同療法は難解なものと考えられがちであるが、実際には決して困難なものではないこと、また、患者さんの生活リズムや睡眠状態パターンを丁寧に聴取することの重要性、その問題点を丁寧に説明することで、どの医療機関でも取り入れることが可能と説明されました。睡眠医療専門医の日常診療の様子や新規に登場するオレキシン受容体拮抗薬による不眠治療の可能性についても講演されました。その後、50分間の質疑応答も非常に活発に行われ無事終了しました。



糸先生

次回は、2015年4月4日(土)に開催予定です。会員の皆様のご参加をお待ちしております。また講演内容・講師についてご希望がありましたら事務局にご一報ください。

研究会等の実施報告

第38回 糖尿病食を作って食べて学ぶ会

平成26年10月28日(火)立川市女性総合センターアイム
平成26年11月28日(金)ルミエール府中

【報告】 当会評議員 登録管理栄養士 医療法人社団糖和会 近藤医院 飯塚 理恵 [管理栄養士]

『第38回 糖尿病食を作って食べて学ぶ会』を10月28日立川、11月28日府中で開催し、計33名の参加がありました。今回は「食物せんいとれていますか?」というテーマで、食物繊維を多く含む食品のおさらいや、食物繊維を摂る事の効用などをレクチャーしました。献立は寒い季節に食べる回数が増える麺を取り入れ、麺の中でも食物繊維の多いそばを使用しました。デザートには以前からリクエストがあったおからを利用した簡単ケーキを作りました。参加者からは「食物繊維を摂ったほうが良いと聞いているけれど、なかなか摂れないので今日の実習を参考にしたい。」「減塩で美味しく食べられる麺の食べ方を教えてもらってよかった。」「おからのケーキが簡単でおいしかった。」などの声が聞かれました。



今回のメニュー

- ・ねぎときのこの鶏そば
- ・青梗菜と桜えびの炒め物
- ・ごぼうとにんじんのマヨネーズ和え
- ・ヨーグルトとおからのケーキ

次回第39回調理実習は1月30日立川、2月24日府中で開催します。内容は自宅で簡単にできる中華料理を実習します。その後の第40回の調理実習は4月、5月に実施します。日程と内容の詳細は事務局にお問い合わせください。お勧めしたい患者様が施設にいらっしゃいましたら是非お声かけください。よろしくお願ひします。

研究会等の実施報告

北多摩糖尿病医介連携研修会
～患者のために必要な医療と介護のシームレスな連携～平成26年11月27日(木)
緑風荘病院グリーン・ボイス

【報告】当会会員 緑風荘病院 藤原 恵子 [管理栄養士]

平成26年11月27日に『北多摩糖尿病医介連携研究会』が開催されました。今回は医療と介護の連携がテーマのため、医師や看護師、管理栄養士などの他、ケアマネジャーや介護福祉士など介護に関わるスタッフも多く参加されました。

第1部では教育講演として、多摩北部医療センターの藤田寛子先生より「高齢者糖尿病患者の特徴」についてご教授いただきました。第2部では緑風荘病院 内分泌代謝科 医長の北村竜一先生に症例をご提示いただき、グループ討議をしましたが、在宅での問題についても活発な意見が交わされました。藤田先生や北村先生からは具体的な助言をいただき、大変有意義でした。最後に当会理事長である公立昭和病院 貴田岡正史先生より、増加する高齢糖尿病患者に対して医介連携の重要性をお聞きし、今後もこの様な会の継続が必要であると感じました。



研究会等の実施報告

第34回 東糖協多摩ブロック糖尿病教室

平成26年12月13日(土)
パルテノン多摩

平成26年12月13日(土)午後2時より、多摩市にあるパルテノン多摩にて『第34回 東糖協多摩ブロック糖尿病教室』が開催されました。当日は50名の参加者がお越しになり熱心に聴講していただきました。

会は東京都糖尿病協会 副会長 クリニックみらい国立 院長 宮川高一先生の挨拶で始まり、東京医科大学八王子医療センター 糖尿病・内分泌・代謝内科 科長 大野敦先生の座長のもと、講師の多摩センタークリニックみらい 医師 長谷川亮先生からは「糖尿病重症化を防ぐ為に～糖尿病腎症の観点から～」をご講演いただき、糖尿病性腎症の基本的なことや腎機能が低下した方への食事・運動療法など、参加者の方へわかりやすく幅広い内容で解説していただきました。

第2部の「ぜひ聞きたい! あんな疑問? こんな疑問? コーナー」では大野敦先生の司会のもと、ご講演をいただいた長谷川先生に加え、多摩センタークリニックみらい 医師 渡邊祐子先生、ウラン薬局 薬剤師 浅田美子先生、東京医科大学八王子医療センター 栄養管理科 永田美和先生、多摩センタークリニックみらい 看護師 濱谷陽子先生の4名の先生方をコメンテーターとしてお招きしました。先生方には会場からの糖尿病性腎症に関する疑問・質問に対してそれぞれの職種からの見解をお答えいただき、大盛況の中、会は終了しました。



研究会等の実施報告

西東京CDEの会 第13回 症例検討会

平成27年1月22日(木)
国分寺労政会館

【報告】 当会理事 西東京CDEの会実行委員 公立昭和病院 櫻井 勉 [臨床検査技師]

1月22日(木)に国分寺の労政会館で『西東京CDEの会 第13回 症例検討会』が開催されました。今回は昨年の「西東京CDEの会 総会」で取り上げた「地域包括ケアにおける糖尿病療養指導士の果たす役割」と連続するように「在宅療養中の高齢糖尿病患者のケア～医療と介護のシームレスな連携を検討しよう～」として企画しました。症例は「要介護状態にある高齢2型糖尿病患者のケア」で、具体的には骨折後に「要介護度3」という状態になった糖尿病患者さんという、とても遭遇する可能性の高い症例でした。

参加者は医師、歯科医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、臨床検査技師、理学療法士、看護助手さんなどと多職種にわたり総勢27名でした。職種が偏らない様に4グループに分かれていただきディスカッションをしましたが、各グループとも、とても活発に発言が見られ、1時間という時間はとても短かったようです。意見を集約していただいた後、各グループから代表者に発表を行っていただきましたが、各グループともポイントを捉えた素晴らしい発表でした。また、検討会に参加していただいていた医師の先生からのコメントはとても参考になるものでした。

大多数の参加者の方から「色々な職種による考え方や意見などが聞け、とても良かった」と言っていたいただき、企画した私たちもとてもうれしく思いました。

年1度の企画ですがこの地域の特性や他の講演などを考慮して症例を選択しています。我々CDEによるCDEのための企画です。ぜひ来年も参加していただきたいと思っています。



【参加者の声】 当会会員 国家公務員共済組合連合会 立川病院 志茂 豊 [臨床検査技師]

今回の症例検討会のテーマは“在宅療養中の高齢糖尿病患者のケア”。私は臨床検査技師なので少し畑違いの感はありますが、これも修行だと思って参加しました。私たちのグループはファシリテーターを入れて6名で楽しい雰囲気でのディスカッションができました。



症例は83歳女性、高血圧症、糖尿病性腎症Ⅲ期、アルツハイマー型認知症。主訴は不眠。81歳のとき転倒骨折から車椅子移動となり、入退院を繰り返した後に在宅療養となり、在宅になってからHbA1cは上昇し8%を超えている状況です。ヘルパーは火・木・土に昼食を作り、デイサービスを水・金10～15時まで受けています。問題点として本人、家族も血糖コントロールが悪化したことを気にしているが、他の家族と同じものを食べさせてしまう。ヘルパーが来るとお菓子を振る舞い一緒に食べながら話をしている。献立をみると腎症Ⅲ期にもかかわらず朝昼夕と味の濃そうなメニュー、また肉類が多い(ラボデータのUNが27.6mg/dlは少し高いのでは？これは自分が指摘しました)。そこで、グループでの目標はHbA1cを8%とし、栄養管理をもっと徹底し、車椅子でも出来る運動を行う。最終目標は外で散歩ができるように・・・ADLとA1cの改善と腎症阻止としました。

症例のまとめでは、石橋先生から周りの人がDMの認識が低いので訪問看護に入ってもらうことや主訴の不眠から認知症の人の中にウツの人も多いというお話があり興味深かったです。

今年で3回目の参加となりますが、来年が楽しみです。

当会の事業・委員会活動のご紹介

- 『糖尿病療養担当者のためのセミナー』の活動 -



当会理事
糖尿病療養担当者のためのセミナー代表
医療法人社団ユスタヴィア

宮川 高一 [医師]

本セミナーは1998年に設立、2014年10月に第19回目を行いました。当初は年に2回開催したり、平日夜間にも行っていたのですが、この10年は休日一日のセミナーとして定着しました。

午前中はまず特別講演。メディカルスタッフが招聘したい先生を全国からお呼びします。昨年は京都の大石内科クリニック 大石まり子先生にピアサポートについてご講演いただきました。東京医科大学 植木彬夫名誉教授の定例講演も好評です。昨年度の学会発表も、もう一度講演します。

昼はランチョンセミナーで7つの分科会に分かれて、メディカルスタッフが知りたいテーマのレクチュアをおこないます。今年は統計・糖尿病と高血圧・白癩症・CGMと食事・合併症・治療薬・サルコペニアでした。

午後は4時間にわたって分科会です。「糖尿病初めてコース」「なぜ糖尿病患者さんは糖質制限に走るのか」「飲んで測ってSMBG」など6分科会を行いました。この分科会の準備は、世話人が6か月かけて行い、当日実施。その準備過程や成果を糖尿病学会に毎年発表しています。毎年10題前後の演題を提出しており、全国的にも知名度がある研究会となりました。研究発表を行う中で多くのスタッフが学会にデビューし、成長していくユニークな研究会です。誰でも世話人になれます。希望の方はご一報を。



連載コラム

テーマ

「フットケア」～全3回～ **第3回**

東京都立多摩総合医療センター 外来担当

日本糖尿病療養指導士 **高野 安世** [看護師]

「患者さんと私をつなぐフットケア」

今回関わった患者さんは、元来病院嫌いで検診を受けたことがなかった。身体のふらつき、右足の発赤・腫脹・黒色化、痛みが増強したため近医を受診したところ、1型糖尿病と診断された。骨にまで壊死が進んでいたため、右下腿部分切断となった。それ以後フットケアの介入となり、毎回「こんなことになるとは、知らなかった…」 「もう、嫌になっちゃうよ…」などの悲観の言葉が聞かれた。

患者さんの血糖の変動に一喜一憂していることや糖尿病や合併症への思いを聴きながら、それに共感を表す姿勢で接していった。ケアの回数を重ねていくうちに、患者さんがテレビで糖尿病のことを観たことを話されるようになり、少しずつ病氣と向き合えるようになってきた。

このように患者さんが病氣や切断肢となった自分を受け入れられるよう、寄り添っていくことが必要である。また、毎日のケアをがんばっていることをねぎらい、残った左足を大切にしようとの思いを共有しながら支援していくことを、これからも心がけていきたい。

普段のめまぐるしい業務のなかでは、じっくりと患者さんと向き合うことは難しい。しかし、フットケアでは、足に触れることで患者さんを直接診ることができ、一歩内側に入って日常生活を知ることができる。フットケアを通して、患者さんの自己管理能力を引き出し、リラックスした雰囲気づくりや家族との関わりも大切に、話を傾聴していきたい。



『答え』

3

下記の解説をよく読みましょう。(問題は1ページにあります。)

『解説』

1. 歯肉炎→辺縁性歯周炎
2. ウィルス→細菌
3. ○
4. う歯の発生機序は、歯垢内の口腔常在菌がショ糖を代謝して生産する菌体外多糖類を基質として形成される有機酸によるう蝕が原因である。
5. 抗生物質や止血薬の投与は、非糖尿病患者と同様に適応を考慮して投与する。むやみな抗生物質の投与は慎む。



事務局からのお知らせ



当会ホームページでは、会員様からのお問合せ、会員情報の変更届けを常時受付けております。ホームページ画面左側に設置の「お問合わせフォーム」及び「登録情報の変更はこちら」をどうぞご利用ください。

《2015年度より年会費の納入方法が変わります。》

- 2015年度年会費より、当会ホームページ「会員マイページ」からの納入に変わります。

納入期間：2015年4月1日～2015年6月30日

年会費：3,000円

納入方法：納入期間中に会員マイページにログインし、「年会費納入のお願い」より、支払方法（「クレジットカード」もしくは「コンビニエンスストア支払い」）を選択し、ご納入ください。※詳細は、同封の別紙「2015年度の年会費ご納入の時期です」をご覧ください。

《当会ホームページからのセミナー申込み方法をご案内します。》

- 当会が主催するセミナー（直接事業のセミナー）がホームページから申込みできるようになりました。

【当会会員の申込み手順】

1. NPO法人 西東京臨床糖尿病研究会ホームページ <https://www.nishitokyo-dm.net/>

2. 「セミナー・イベント」をクリック。

3. 申込みたいセミナー名をクリック。

4. 画面下の「このセミナーに申し込む」

をクリック。

5. 申込みされる方のステータス（本法人会員）を選び、会員ID・パスワードを入力し「次に進む」をクリック。

6. 各自の会員登録内容を元に必要項目が入力された状態で表示される。（※入力内容を修正したい場合は、「会員マイページ」内の「会員情報の確認・変更」で会員登録情報を修正する。）

入力内容に問題がなければ、「入力した内容を確認する」をクリック。

7. 入力内容を確認し、最後に「この内容で送信する」をクリック。

8. 「会員マイページ」内の「お申し込み中の本法人主催セミナー」に登録されているかを確認。



セミナー・イベント名 第〇〇回〇〇〇セミナー

日時 1日 2015年04月04日 18時00分～20時00分

LCDE認定番号 LXXXX

氏名

個人情報の取扱いについて承諾する

研究会等のセミナー・イベント情報

直接事業 間接事業 その他

NPO法人 西東京臨床糖尿病研究会 糖尿病災害対策委員会

申込不要

テーマ：『東日本大震災から4年目を迎えて～いま私たちが考えること～』

開催日：平成27年3月11日（水） 19：20～21：00

場所：立川市女性総合センターアトム・ホール（JR「立川駅」北口徒歩7分）

参加費：無料

★西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：4単位

※詳細は同封の資料をご覧ください。



第35回 東糖協多摩ブロック糖尿病教室 第21回 西東京糖尿病患者会連合特別講演会

申込不要

テーマ：『糖尿病を勉強しませんか？～正しい知識があなたの未来を明るくする～』

開催日：平成27年3月14日（土） 13：00～16：30

場所：武蔵野公会堂（JR・京王線「吉祥寺駅」南口徒歩2分）

参加費：無料（どなたでも参加できます。）

★西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：2単位

※詳細は当会ホームページをご覧ください。

研究会等のセミナー・イベント情報

 直接事業
 間接事業
 その他

 第18回 TAMA生活習慣病フォーラム

 申込必要

テーマ：『低血糖予防！～厳格な管理の光と影を考える～』

開催日：平成27年3月14日（土）17：00～19：30

場 所：調布市文化会館たづくり 12階 大会議場（京王線「調布駅」南口徒歩3分）

参加費：500円

申込み：当会ホームページよりお申込み用紙をダウンロードのうえ、FAXでお申込みください。

（締切：3月6日（金））

FAX：042-362-1602（宛先：ノボ ノルディスク ファーマ㈱ 小澤 / 問合せ：042-362-1601）

★西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：2単位

★日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜第2群＞：0.5単位申請中 ※詳細は当会ホームページをご覧ください。

 第1回 糖尿病とwell-aging研究会

 申込必要

開催日：平成27年3月28日（土）16：00～18：10

場 所：NSスカイカンファレンス 30階 ホールB（東京都新宿区西新宿2-4-1新宿NSビル）

参加費：無料

申込み：同封のお申込み用紙にて、FAXでお申込みください。（締切：3月20日（金））

FAX：042-526-4698（宛先：MSD㈱ 結城・浅水 / 問合せ：042-526-4691）

★西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：2単位

★日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜第2群＞：0.5単位申請中

★日本医師会生涯教育制度（カリキュラムコード：13・14・29・76）：2単位申請中

★日糖協病療養指導医取得のための講習会：申請中

※詳細は同封の資料をご覧ください。

 NPO法人 西東京臨床糖尿病研究会 企画委員会主催 第9回 学術講演会

 申込必要

開催日：平成27年4月4日（土）18：00～20：00

場 所：国分寺労政会館 第4会議室（JR「国分寺駅」南口徒歩5分）

参加費：無料

申込み：当会ホームページの申込みフォームよりお申込みください。（締切：3月27日（金））

※申込み手順は7ページの「事務局からのお知らせ」を参考にしてください。

★西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：4単位

★日本医師会生涯教育制度（カリキュラムコード：2・8・9・76）：2単位申請中

★日糖協病療養指導医取得のための講習会：申請中

※詳細は同封の資料をご覧ください。

今回は、富山医科大学教授でバイオ統計学・臨床疫学の領域では第一人者の折笠秀樹先生をお招きします。糖尿病研究のあり方が厳しく問われている現状を考慮すると是非とも聴講しておきたい内容です。80名収容可能な会場を設定しましたので、若手・中堅の先生、臨床研究に興味のあるコメディカルの皆様に参加の声掛けをいただきたくお願い申し上げます。

 西東京CSII普及啓発プロジェクト 第5回研修会

 申込必要

開催日：平成27年4月9日（木）19：25～21：05

場 所：国分寺労政会館 第5会議室（JR「国分寺駅」南口徒歩5分）

参加費：無料

申込み：当会ホームページの申込みフォームよりお申込みください。（締切：3月31日（火））

※申込み手順は7ページの「事務局からのお知らせ」を参考にしてください。

★西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：4単位

※詳細は同封の資料をご覧ください。

発行元

NPO法人 西東京臨床糖尿病研究会 事務局

〒185-0012

国分寺市本町2-23-5 ラフィネ山No. 3-802

TEL:042(322)7468 FAX:042(322)7478

http://www.nishitokyo-dm.net

Email:w_tokyo_dm_net@crest.ocn.ne.jp

編集後記



編集後記

編集後記

編集後記

糖尿病の記念日と言えば、11月14日の世界糖尿病デー（World Diabetes Day）はよくご存知ですね。3月の第4火曜日にADA（American Diabetes Association）が定めたDiabetes Alert Day（今年は24日）があり、糖尿病の危険性を全米に知らせ、糖尿病リスクテストを受け、その対策を行ってもらう日です。糖尿病でない方にも自分の発症リスクを知り、発症前から対策できるといいですね。（広報委員 松下 隆哉）